

- 基本目標 1 福智町にしごとをつくり、安心して働けるようにする。
- 基本目標 2 福智町への新しい人の流れをつくる。
- 基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。
- 基本目標 4 時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。

求められる将来像

“選ばれるまち”福智へ

人口減少に歯止めをかける



↑総合戦略はまちのHPでも公開していますので、ぜひ一読ください。

全国的に急激なスピードで加速する人口減少が目前に迫り、「まちの存続」をも危ぶまれているいま、「ずっと暮らしたい」とこのまちに住むみなさんから思われ、「福智に住んでみたい」と町外の人々にまちの魅力を知ってもらえる、そんな「選ばれるまち」になることが人口減少を食い止めるキーワードです。わたしたちのふるさと「福智町」を次の世代につなげるため、昨年10月に「福智町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会」が国の調査結果や分析システム、町民アンケートなどをもとに、現状と課題、将来予測について審議、将来展望を提示する「人口ビジョン」と、人口減少を食い止める内容を示した「総合戦略」を策定し、嶋野町長に報告しました。

明らかになった現状から 未来に向けた施策を導き出す

総合戦略では、膨大なデータの比較から導き出されたまちの目指すべき姿や長期的・継続的に取り組んでいかなければならない特徴も示されました。「①県内5市への流出が顕著」「②大規模な土地が少なく、産業基盤の確保や雇用の創出のための「大企業の誘致が困難」「③まちとしての知名度がまだまだ低い」「④学力水準が全国平均以下」といったまちが抱える課題を解決するため、今後5年間で取り組む具体的な施策や数値目標を定めています。また、嶋野町政が3本の柱に設定し、すでに将来設計として進めている「雇用・定住促進」「地域ブランド化」「小さな拠点づくり」に対しても、現状と課題からそれぞれ細かく目標数値を設定。今後、「できること」「さらに強化すべきこと」として挙げられた施策のシミュレーションを重ね、今後の施策に盛り込んで行く予定です。

福智町誕生から10年— この先10年を見据えた挑戦

「一生を過ごしたいまちはどんなまちですか？」その答えは十人十色。さまざまな立場や環境で思い描く理想のまちの姿も違わずです。今回示された総合戦略では、そんなニーズに応えられる「選ばれるまち」への施策が盛り込まれています。今後、関係機関と連携して、「時代に誇れるまち」、そして、「だれもが夢を描けるまち」の実現に向け、ひとつひとつ課題を乗り越えながら、創造的なチャレンジを重ねていきます。

全国的に急激なスピードで加速する人口減少が目前に迫り、「まちの存続」をも危ぶまれているいま、「ずっと暮らしたい」とこのまちに住むみなさんから思われ、「福智に住んでみたい」と町外の人々にまちの魅力を知ってもらえる、そんな「選ばれるまち」になることが人口減少を食い止めるキーワードです。わたしたちのふるさと「福智町」を次の世代につなげるため、昨年10月に「福智町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会」が国の調査結果や分析システム、町民アンケートなどをもとに、現状と課題、将来予測について審議、将来展望を提示する「人口ビジョン」と、人口減少を食い止める内容を示した「総合戦略」を策定し、嶋野町長に報告しました。



↑産業界、行政、教育機関、金融界、労働界、言論界の専門家などで組織された委員会が総合戦略を報告。

pick up グラフ ② 就業特性

図 福智町の産業別就業者比率の詳細【平成22年(2010)】

社会を支える医療・福祉も人口減少の波で失業の可能性

「人口ビジョン」の分析

町内在住者の就業先は医療福祉事業の比率が最も高く、介護関連事業が最多。しかし、平成30年代から福智町の高齢者数自体が減少し、介護サービスの供給過多が懸念されます。人口ビジョンでは「介護関連事業従事者の失業を防ぎ、この地域課題を地域の特性と捉え、時代のニーズに沿った先駆的なサービスの導入を図る必要がある」と分析されています。

図 福智町の人口ピラミッド推移【平成52年(2040)】

80歳以上の男性人口 1,121人	90歳以上 300人	85~89歳 426人	80~84歳 446人	75~79歳 499人	70~74歳 646人	65~69歳 613人	60~64歳 551人	55~59歳 502人	50~54歳 456人	45~49歳 456人	40~44歳 453人	35~39歳 437人	30~34歳 399人	25~29歳 352人	20~24歳 353人	15~19歳 354人	10~14歳 326人	5~9歳 308人	0~4歳 男子人口 308人	
80歳以上の女性人口 2,379人	90歳以上 935人	85~89歳 757人	80~84歳 687人	75~79歳 577人	70~74歳 625人	65~69歳 708人	60~64歳 642人	55~59歳 595人	50~54歳 482人	45~49歳 442人	40~44歳 449人	35~39歳 423人	30~34歳 375人	25~29歳 370人	20~24歳 331人	15~19歳 334人	10~14歳 327人	5~9歳 304人	0~4歳 女子人口 293人	
20代~30代の男性人口 1,641人																				

資料：国勢調査/平成22年(2010)

※掲載の都合上、業種と比率は順不同で表示しています。

pick up グラフ ① 人口動態

図 福智町における人口動向トップ5自治体の相関マップ【平成22年(2010)~平成26年(2014)】

人口は通勤地・都市部へ 県内5市の流出目立つ

対直方市
転入 ▶ 303人
転出 ▶ 366人
増減 ▶ -63人

対北九州市
転入 ▶ 423人
転出 ▶ 441人
増減 ▶ -18人

対福岡市
転入 ▶ 206人
転出 ▶ 364人
増減 ▶ -158人

対飯塚市
転入 ▶ 287人
転出 ▶ 435人
増減 ▶ -148人

対田川市
転入 ▶ 681人
転出 ▶ 756人
増減 ▶ -75人

「人口ビジョン」の分析

データが示す福智町の人口の動向は、転入転出ともに8割が県内の移住です。その内、人口の流出先は、筑豊圏内が全体の7割を占め、特に田川市、飯塚市への転出が顕著。筑豊圏外では、福岡市と北九州市の両都市への人口流出が全体の2割以上を占めています。

「総合戦略」による提案

本町の完全失業率の高さは深刻な状況で人口流出が続いているため、労働力の減少が著しくなっています。そのため、人口流出先自治体の定住サポートよりも手厚い支援策が不可欠であり、通勤圏を拡大するための施策が有効です。

- ▶ 20km圏内に通勤する共働き世帯でも子育てしやすいような支援や仕組みづくり
- ▶ 民間資本による企業立地と居住環境の整備を促進する施策
- ▶ 移住・転居や通勤費の優遇措置 など

資料：「ふくおかデータウェブ」平成21年(2009)10月~平成26年(2014)9月までの確定値